

# 産業教育ワーキンググループヒアリング 説明資料

- 資料1** 埼玉県立常盤高校について
- 資料2** ナーシングスキルの活用状況について
- 資料3** H27 SPH 講師一覧
- 資料4** 1年生防災プロジェクト学習指導実施報告
- 資料5** H27シラバス(第3学年)

平成28年1月8日(金)

埼玉県立常盤高等学校

## 埼玉県立常盤高校について

本校は、埼玉県唯一の看護高校として、豊かな人間性、確かな知識・技術を兼ね備えた看護のスペシャリストを養成しています。昭和 45 年の創立以来、県内病院を始め、多くの医療機関に優秀な看護師を輩出しています。看護科 3 年とそれに続く看護専攻科 2 年を合わせた 5 年一貫教育を行っています。本校は、全国の看護高校の牽引役としての自覚の下、生徒の能力の向上のために努力を惜しまず、常に高校看護教育の発展に力を尽くしてまいりました。そして、平成 26 年度、さらなる高みを求めてスーパー・プロフェッショナル・ハイスクール（SPH）に応募し、指定を受けることとなりました。

SPHを展開する上で最初に重視したのは、看護科教員のみならず、普通科教員、養護教諭、実習助手、事務室を含めたすべての教職員がどこかで必ずSPHを支える担い手になるという全校体制、いわゆる「チーム常盤」の構築です。SPHを通じて、学校の一体感がより強固になることを期待しました。この点に関しては、当初の想定を超える成果がありました。教職員一人一人が、自分の特徴や関心を生かして積極的にそれぞれの活動に取り組みました。そして、教員の高い要求に真剣に応えようと前向きに取り組む生徒たちの姿に感激し、その成長を観察できた事が最大の喜びです。SPHにより、生徒の能力の一層の向上が図れるという確かな手ごたえを教職員は感じています。同時に、初年度の取組を踏まえた 2 年目以降の計画の見直し、SPHと日常の授業との関連、事業評価の確立など、取り組むべき課題も見えてきました。これらの課題の解決に向け、さらなる研究を続けてまいります。

### 1 本校のSPHの概要について

SPH事業の指定を受ける段階での本校の状況は、5 年一貫教育の体制が定着し始め、看護師国家試験の合格率も 100% 近くを維持することができるようになっていました。しかし、医療現場全般の課題として、看護師の離職率の高さが挙げられており、本校でも進路指導の課題としてその問題を捉え、解決に向け、さまざまな取組を行っていたところでした。SPH事業への応募は、その解決へのひとつの糸口でもありました。

研究の概要として、広い視野に立った看護観を育てることを目指した「豊かな人間性」、臨床に即した看護実践能力を育てることを目指した「確かな知識・技術」、看護の探求、研究的態度を養うことを目指した「科学的思考・判断力」の育成を 3 つの柱としています。そして、この 3 つの柱を統合する活動としてプロジェクト学習に取り組む、課題を発見し解決する力を活用することで、これまで身につけている「学ぶ力」を、「生涯学び続ける力」に発展させます。これらの活動を通して、社会の第一線で活躍できる専門的職業人を育成することを目的としています。

校内の全教員が「豊かな人間性」、「確かな知識・技術」、「科学的思考・判断力」、「生涯学び続ける力」の四つの研究チームに分かれ、様々な取り組みを行っています。今年度は、指定 2 年目であり、専攻科の取組は一部を除いて、準備を進めている段階ではありますが、すでに実施している高校での取組を中心に紹介していきます。

#### (1) 「豊かな人間性」を育てる取組

「豊かな人間性」を育てる取組では、ボランティア活動等を通して奉仕の心を育て、命の大切さについて考える「豊かな人間性」を養うとともに、自律した思考に基づいた倫理的な判断力を持ち、広い視野に立った看護観の確立を目指します。

### ①花を育てる活動

S P Hの象徴である花壇で花を育てる活動を高校1年生が行っています。隣接するさいたま桜高等学校生産技術科の生徒の協力を得ながら、花を種から育て、チームの一員としての責任感、協調性、連帯感、あるいは草花の美しさを感じ取ることができる感性など、生徒の心・感性に変容がもたらされることを期待しています。

### ②夏休みボランティア活動体験

高校1年生から専攻科1年生の全員が、夏休みに一人一日以上のボランティア活動体験を行います。活動の前後には、体験を共有する機会を持つようにしています。これらの活動を通して、地域で行われている活動を知り、奉仕の心を育てるとともに、コミュニケーション力を向上させ、相手の立場に立って考えることのできる「豊かな人間性」を養うことをねらいとしています。特に、活動の一環として震災直後より復興支援をしている、聖学院大学と連携した取組では、高校3年生、専攻科1年生の希望者を募り、岩手県釜石市を中心に訪問するボランティアスタディツアーを実施しています。「常盤ならではのボランティア活動を提案するプロジェクト」は、本年で2年目となり、常盤高校の生徒が現地の方々のニーズに合わせてできる活動を考え、実施していく活動です。これらの活動による経験を他に伝え、共有するために、校内のみならず地域での報告や交流を行い、活動の場を広げています。

### ③ライフステージからみた生命倫理に関する授業・人間関係論の授業における演習の充実

専攻科での取組では、高校で学んできた生命倫理をさらに系統的に学ぶことによって、命の大切さを改めて確認し、看護観の育成へとつなげていきます。さらに、コミュニケーション力の向上を図ることで「豊かな人間性」の育成を目指します。

看護教科の各領域で扱っている生命倫理に関連する単元において、領域間で関連性を持たせ、生命誕生から死に至るまでの倫理的な問題を、生徒が主体的に考えることができる指導法への転換を図ります。また、自己や他者の理解を深め対人関係を円滑にし、コミュニケーション力を向上させることをねらいとして、専門の講師と連携し演習を充実させていく予定です。

## (2)「確かな知識・技術」を育てる取組

「確かな知識・技術」を育てる取組では、ICTを活用し、協調学習を組み合わせたアクティブラーニングの実践を通して自発的な学習を確立し、確かな知識の定着を目指します。また、病院等と連携し、確かな知識・技術に基づいた応用力・実践力を育てることを目指します。

### ①デジタルコンテンツを用いたe-ラーニングによる授業の開発

看護技術の授業をデジタルコンテンツによる予習を前提として展開し、自ら根拠を考える力を身につけることを目標としています。既成のデジタルコンテンツを本校の指導内容に合わせてカスタマイズし、予習・復習に活用しています。また、看護技術の授業において動画による手順の確認等、ICTの活用を実践しています。今後は、高校、専攻科ともにICTの活用や、シミュレーション教育等の手法を用いて、実際の看護の場面をイメージできるような授業の開発を行っていく予定です。

### ②専門家による授業

これまで専攻科から実施していた臨床における専門家の授業を、高校2年生から導入し、学習進度や目標に合わせて授業を実施しています。高校2年生では、初めての臨地実習の前に「基礎看護」に

において「医療現場における感染管理」や「放射線の基礎知識」、高校3年生では「基礎看護」における「フィジカルアセスメント（聴診法）」、「災害看護」や、「成人看護」における「がん看護」、「放射線療法」の授業を認定看護師や、放射線療法士に依頼し実施しています。

また、専攻科においては、看護の専門性に関連した活動を行っている企業と連携した取組をすすめていく予定です。

### (3) 「科学的思考・判断力」を育てる取組

「科学的思考・判断力」を育てる取組では、研究的視点を取り入れた学習活動を通して、課題発見能力や問題解決能力を育てるとともに、看護学の構築・発展に寄与しうる研究能力を身につけた人材を育成することを目指します。

#### ①実験的要素を含んだ学習体験

看護を実践する上で必要不可欠な科学的根拠について、疑問を持ち、仮説に基づいてデータを取り、科学的に考察する力を育てることを目標に授業の中に実験的要素を含んだ学習を取り入れています。計器を用いて数値を測定したり、観察機器を用いて可視化したりする経験を通して、看護実践上の原則について論理的に科学的根拠を理解できるようにします。また、自ら仮説を立て、実験的要素を含んだ学習体験を通して、得られたデータを基に「考えてみる」経験を重ねることで、科学的思考力を伸ばしたいと考えています（主に「基礎看護で実施」）。

#### ②大学との連携による専門性の高い学習

「看護」に関連した授業の一環として、大学と連携し、大学の施設・設備・実験機器を使用して、大学の指導者による専門性の高い実験・実習的要素を含んだ講義を受講する機会を設けています。高校1年生では「基礎看護」、高校2年生は「栄養」、高校3年生は「薬理」、専攻科1年生は「生化学」に関連した内容で実施しています。

#### ③看護研究方法の学習

高校2年生の「看護情報活用」の授業の中で、文献検索の基礎、データ処理の基礎、統計処理の基礎やプレゼンテーションの手法等を学びます。高校3年生では、自分たちで設定したテーマに沿って文献検索やクリティークを経験します。専攻科1年生を対象として、「研究方法」に関する大学との連携講座を実施します。

専攻科2年生で行う「看護研究」の基礎学習を高校から始めています。

### (4) 「生涯学び続ける力」を育てる取組

すでに看護の世界において、アクティブラーニングとして定評がある「プロジェクト学習」を取組の軸として、課題解決の方法を学び、「豊かな人間性」、「確かな知識・技術」、「科学的思考判断力」における学びを相互に関連づけ学びを深めます。これにより自ら課題を発見し、課題解決する「生涯学び続ける力」を育てることを目指しています。

#### ①ポートフォリオの活用

プロジェクト学習時に作成するポートフォリオの手法を活用して、高校1年生より、パーソナルポートフォリオを作成し、入学時や他学年との交流の際の自己紹介に用いています。高校3年生以降は、キャリアポートフォリオとして、自分の将来の目標を達成するためのツールとして活用していきます。

## ②プロジェクト学習

高校1年生は入学時に、プロジェクト学習の第一人者である鈴木敏恵先生から「プロジェクト学習」のオリエンテーションを受けます。そして、チームプロジェクトとして「常盤高校生に役立つ防災マニュアルを提案します！」に取組み、プロジェクト学習の手法を学びます。また、7月から翌年2月にかけては、マイプロジェクト「大切な人の健康を守る方法を提案します！」に取組みます。マイプロジェクトのプレゼンテーションでは、他の学年とも交流し、地域や、実習病院の関係者、保護者にも公開しています。

高校2年生は、「科学的思考・判断力」の実験的体験の結果を根拠にした「私たちが見つけた！エビデンスに基づいた看護技術集」の作成を、プロジェクト学習の手法を用いて行います。また、高校3年生では、「看護師になるという目標達成へ向けた提案」をするマイプロジェクトを行います。

今後専攻科1年生では、「看護職者の視点を持って地域に役立つ提案」、専攻科2年生では、「自分の看護観を見つめた提案を行うためのプロジェクト」に取組む予定であり、準備を進めています。

## 2 これからの取組

本校でのSPHの取組も2年目の終盤となり、これまでの看護科での取組に加え、先行的に準備・実施してきた専攻科での取組を精査し、プログラムとして系統づける準備を進めています。生徒の様子も、「主体的に考え行動する」、「自分の意見を持ち、伝えることができる」など、学校生活の各場面でこれまで不足していたと思われる点に変化がみられます。看護科で培われた基礎的な力を専攻科でさらに発展させ、生涯学び続ける専門職者を育成することを実現するために、この取り組みを続けていきたいと思います。

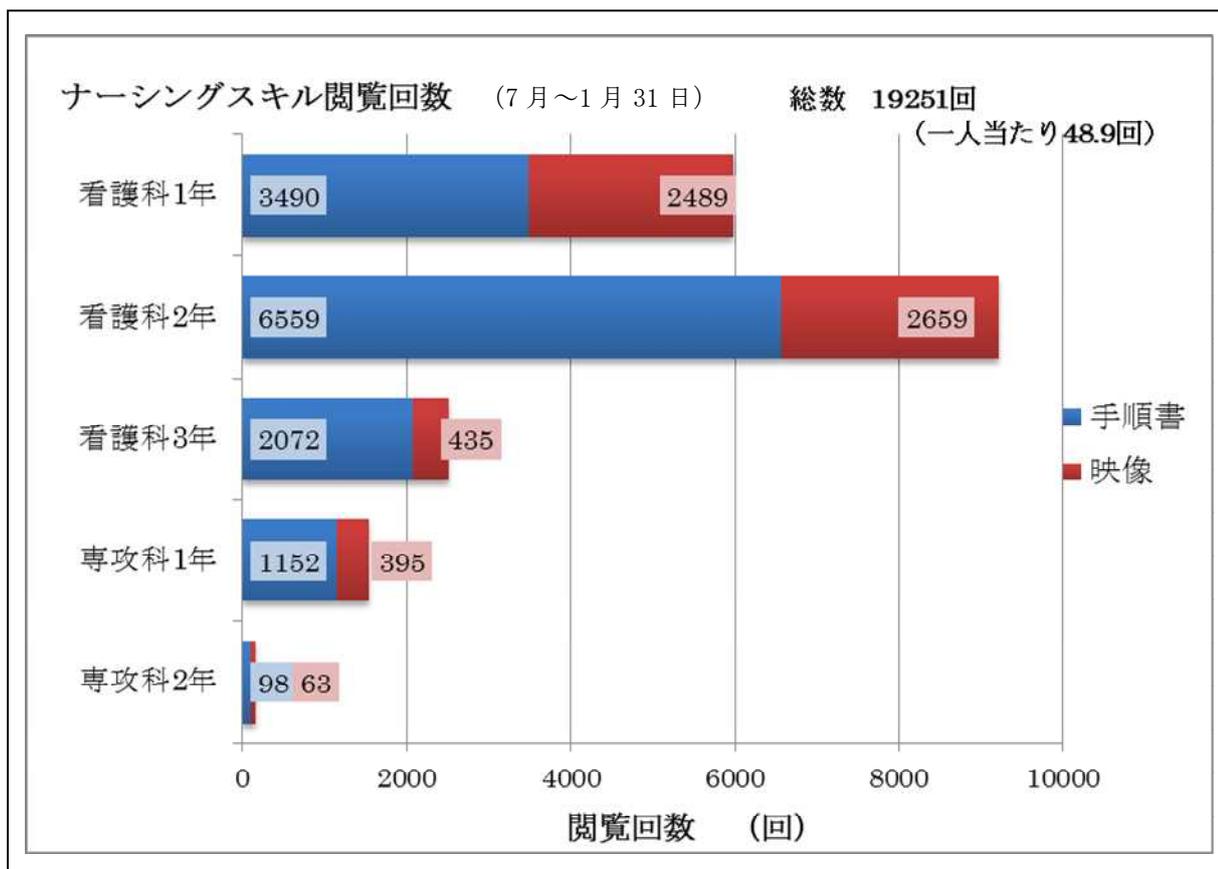
## ナースィングスキルの活用状況について

## ナースィングスキルの活用状況

平成26年7月にデジタルコンテンツ「ナースィングスキル」を全生徒に導入した。その後の高校1、2年生の「基礎看護」の授業では、予習としてナースィングスキルを活用した手順書を作成させた。また実際の授業で動画を視聴させ、技術のイメージ化をはかった。

初年度のナースィングスキルの利用状況は下記のグラフであり、総閲覧数は19000回を越え、一人当たり平均で50回程度視聴していた。特に授業で活用している高校1、2年生が多く、高校2年生の筋肉注射の演習前日には、全員の生徒がナースィングスキルを予習として自主的に視聴しており、導入当初としては、よく活用できていた。生徒のアンケート結果では「教科書の文字や写真だけでなく、動画を見ることでイメージ作りに役だった」、「理解するまで繰り返し視聴できる」などの感想が多かった。

平成27年度は、高校3年生や専攻科1、2年生が、臨地実習中などに技術の確認を行う利用方法に加え、校内のタブレット・電子黒板の活用とWiFi環境の整備が進み、授業内での活用回数が大きく増加している。また、本校教員により作成されたオリジナル動画を「ナースィングスキル」の動画ライブラリに配置する取組を開始したことにより、授業内のデモだけでなく、何度も模範的な技術を確認できることから、自主的な閲覧回数も増加している様子である。年度末の最終集計と活用についての分析結果を待ちたい。





平成27年度 1年生防災プロジェクト（RP）学習 指導実施結果

常盤高校1年生が作る 常盤高校に役立つ 地震が起きた時の校内場所別“避難マニュアル”をつくる！  
～そばにいる大切な人を守りながら行動できるために～

ビジョン（目的）：地震が起きた時、来校者や生徒・教員みんなが校内のどこにいても、身近にいる人を守りながら、安全に避難行動がとれるようにしたい。

教科 基礎看護＋LHR

身につく力 プロジェクト学習における修得知：イメージ力、課題発見力、課題解決力、チームワーク力、プレゼンテーション力、

看護教育としての「専門知」：危険予測力、避難行動力、大切な人を守る視点での状況判断力

指導計画（配当時間 15時間）

地震発生状況：平成27年 9月5日土曜日 11時00分

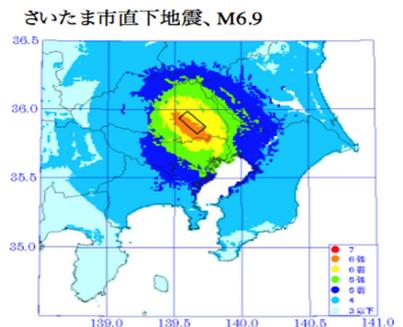
文化祭一般公開中

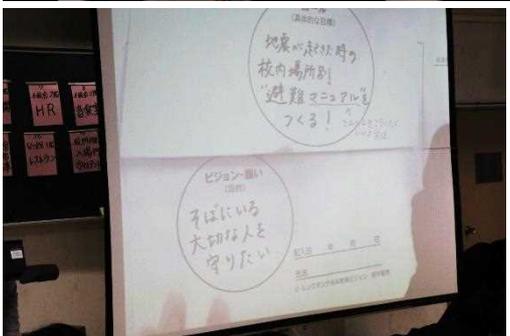
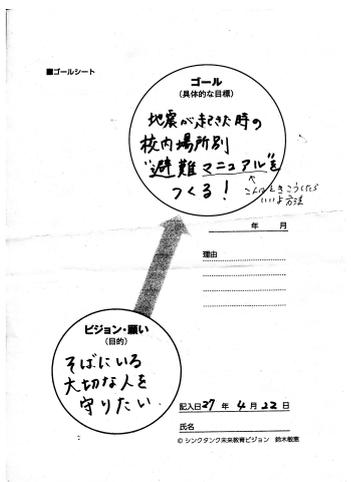
天気：晴天 気温：最高気温32度 湿度：62% 不快指数：83（暑くて汗が出る）

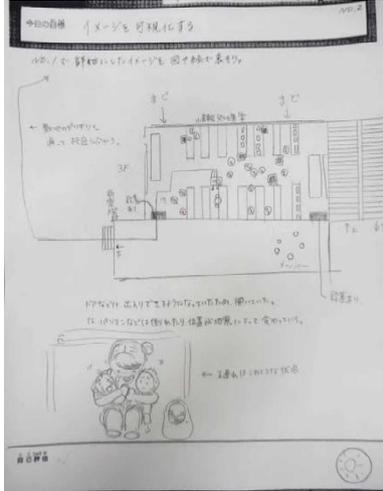
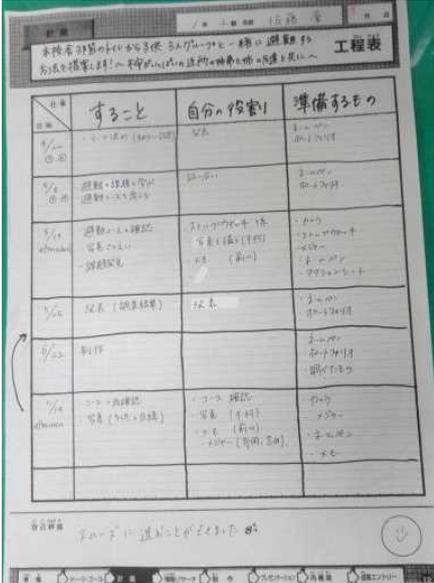
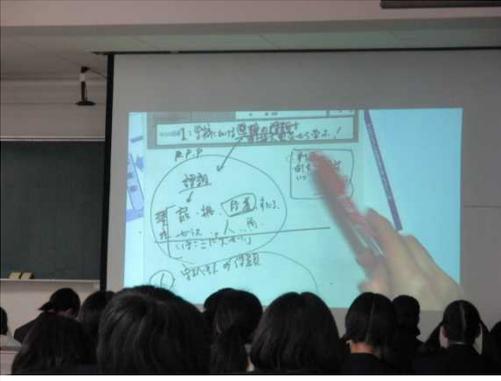
さいたま市直下型地震 M6.9 さいたま市震度6強

生徒数：約400名 教員数：約60名 来校者数：約400名

参考資料：



時間	フェーズ	活動	実施日時	
			1組	2組
1 ・ 2	準備	<input type="checkbox"/> プロジェクト学習・ポートフォリオの活用を知る <input type="checkbox"/> 全体テーマとゴールを知る <input type="checkbox"/> 展開の流れを知る <input type="checkbox"/> チーム作り <input type="checkbox"/> チームごとのテーマ（目標）を決める ・模造紙記入・発表	  	
			4/22(水) 5・6時限 13:25～15:15 (鈴木先生指導)	

課題		<input type="checkbox"/> 状況を詳細にイメージする <ul style="list-style-type: none"> <li>・部屋を見る</li> <li>・チームメンバーの位置</li> <li>・一緒に避難する人の位置・特徴・状態など</li> </ul> <input type="checkbox"/> イメージを可視化する		5/1(金)提出
3	計画	<input type="checkbox"/> 戦略的に計画を立てる力を身に付ける <ul style="list-style-type: none"> <li>・使える時間はどのくらいあるか?</li> <li>・必要な情報は何か?</li> </ul>	 	5/8(金) 3・4 時限 10:50~12:40 (鈴木先生指導)
4	情報・解決策	学校における避難の課題を東日本大震災から学ぶ！ <input type="checkbox"/> 課題発見 <ul style="list-style-type: none"> <li>・部屋の中・避難経路</li> </ul> <input type="checkbox"/> 図面をみて課題を発見する <ul style="list-style-type: none"> <li>・敷地図</li> <li>・部屋の中</li> <li>・避難経路</li> </ul>		

放  
課  
後

情報・  
解決策

チーム毎に避難経路の写真撮  
影、距離・時間測定





8	解決策	<input type="checkbox"/> 避難経路の見直し ～“その人”“その環境”を考えた上で避難経路を見直す～ <input type="checkbox"/> 課題解決策を考える		6/8(月) 5 時限	6/8(月) 6 時限
9	解決策	<input type="checkbox"/> 判断し行動する力を身に付ける <input type="checkbox"/> 解決策の実施 ・ビデオ撮りと振り返り		6/15(月) 5 時限	6/15(月) 6 時限
10 ・ 11	制作	<input type="checkbox"/> 他者に伝える力を身に付ける ・模造紙にプレゼン用の制作		6/22(月) 5・6 時限 (鈴木先生指導) 6/23(火) 7 時限	
12	リハーサル	<input type="checkbox"/> 他者に伝える力を身に付ける ・プレゼンリハーサル		6/29(月) 5 時限	6/29(月) 6 時限
13				6/30(火) 7 時限	

14 プレゼン  
・ 再構築  
15 成長確認

□他者に伝える力を身に付ける  
□自分が身につけた力を書き出す  
□自分がもっと成長したい力をあげる  
□このプロジェクト学習で身につけた力がどのような場面で活かすことができるか



7/1(水)  
5・6時限  
13:25~15:15  
(鈴木先生指導)

教科名	看護	科目名	基礎看護
-----	----	-----	------

履修学年	1 学年	単 位 数	4 単位
教 科 書	高等学校用 基礎看護 文部科学省	副教材等	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学〔1〕 看護学概論 専門Ⅰ 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅰ 専門Ⅰ 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ 専門Ⅰ 基礎看護学〔4〕 臨床看護総論 (医学書院)

<p><b>1 学習の目標</b></p> <p>① 看護の対象となる人間を総合的に理解し、看護の意義と保健・医療・福祉における看護の役割を理解させるとともに看護観とその倫理観を培う。</p> <p>② 日常生活が人間の健康や成長・発達にかかわりを持つことを理解し、患者の状態に応じた日常生活の援助を行なうための基礎的な知識と技術を習得する。</p> <p>③ 診療の概念と診療における患者への影響を理解し、診療が円滑に行なわれるための基本的な知識と技術を習得する</p>
<p><b>2 授業の内容と進め方</b></p> <p>・講義および校内実習を行う。</p> <p>・プロジェクト学習「大切な人の健康を守る方法を提案します！」を行う。</p> <p>① 講義は「到達目標と到達度」により授業ごとの達成度を各自で確認する。</p> <p>② 校内実習は、デモンストレーションや視聴覚教材により手順を確認し、原則4人1組のグループで実習する。患者体験も交互に行う。</p> <p>③ 指導はチームティーチングで行う。</p>
<p><b>3 学習の留意点</b></p> <p>① 身の回りの出来事に興味・関心を持って生活し、命の大切さや倫理観、看護師のあるべき姿について考えを深めましょう。</p> <p>② 授業は身だしなみ(爪・頭髮・ユニフォーム等)を考えて臨みましょう。</p> <p>③ 常に援助の根拠を考え、対象者の安全・安楽を図りながら実施しましょう。</p> <p>④ 患者体験では、援助を受ける患者の気持ちを学びましょう。</p> <p>⑤ 実習では、チーム内で、気付いたことを伝え合い、創意工夫をしましょう。</p> <p>⑥ 授業で学んだ基本的な知識と技術を様々な場面において使用できるように、応用していきましょう。</p>

**4 科目評価の観点**

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
看護に関する諸課題についての関心を持ち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに実践的な態度を身につけている。	看護に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、看護に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身につけている。	看護の各分野に関する基礎的・基本的な技術を身につけ、看護に関する諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。	看護の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、看護の意義や役割を理解している。

5. 授業計画

学期	月	単元	学習内容	到達目標 (学習のねらい)	評価の観点				時数 予定	
					関	思	技	知		
前 期	4  5	第1章 看護の意義と役割 第2節 看護の対象の理解	1 身体的・精神的・社会的統一 としての人間 2 人間の基本的欲求と看護 3 人間の成長・発達の過程 4 患者とその家族の理解	人間の持つ3つの側面と基本的欲求や成長・発達の過程について理解し、対象の個別的な病状や心理状態、文化的・社会的な背景を総合的に把握して看護を行うことを理解できる。	○	○			5	
		第1章 看護の意義と役割 第1節 看護の意義	1 看護の目的と機能	専門職である看護は、豊かな人間愛と職業倫理、科学的な知識に基づいて援助することがわかる。	○			○	3	
			2 看護の変遷 3 現代の看護	看護の起源と専門職としての看護の歴史について学び、現代の看護をより深く理解できる。	○			○	4	
	6	第2章 日常生活と看護 第1節 日常生活の理解	1 日常生活の意義 2 患者にとっての日常生活の意義と看護の役割	日常生活行動は人間の基本的欲求に基づいており本来自主的な行動であることを理解し、健康に問題が生じ日常生活行動が自力で行えないときに、看護が重要になることを理解できる。			○	○	2	
		第1章 看護の意義と役割 第3節 看護活動の分野	1 家庭における看護 2 学校における看護 3 職場における看護 4 病院における看護	家庭・地域・学校・職場など様々な場において看護活動が行われており、それらの看護の役割を理解できる。	○			○	1	
	7	第2章 日常生活と看護 第9節 病床環境の調整	1 人間と環境 2 病院と環境	人間の健康にとって望ましい環境条件について理解し、環境を整えるための知識と技術を習得する。				○	○	6
		第2章 日常生活と看護 第4節 活動・運動の援助	1 姿勢と体位 2 安楽な体位と看護者の役割 3 移動の援助と看護者の役割	姿勢・体位と運動が健康に及ぼす影響、その種類と特徴、ボディメカニクスの原理が理解でき、安静による障害、安楽な体位・良肢位の保持・体位変換・移動と移送・床上運動について知識と技術を習得する。 ・体位変換 (演習)				○	○	8
	9	第2章 日常生活と看護 第9節 病床環境の調整	3 ベッド周囲の環境の調整	環境を整えるための知識と技術を習得する。 ・ベッドメイキング(演習) ・シーツ交換 (実技テスト)				○	○	15
		第2章 日常生活と看護 第7節 衣生活の援助	1 衣生活の意義 2 患者の衣生活への援助 3 寝衣交換	衣服と健康との関連について学び、病人の寝衣の条件と交換の必要性が理解でき、状態に応じた着脱方法の知識と技術を習得する。 ・寝衣交換 (演習)				○	○	4

学期	月	単元	学習内容	到達目標（学習のねらい）	評価の観点				時 予 数 定
					関	思	技	知	
後 期	10	第4章 看護活動の展開 第4節 看護活動の場における組織	1 保健・医療・福祉に携わる人々 2 医療関係職種との連携の必要性 3 医療施設における看護組織・看護体制	サービスとしての看護、チーム医療、看護をめぐる制度について理解する。	○			○	2
	11	第2章 日常生活と看護 第6節 身体の清潔の援助	1 身体の清潔と健康 2 身体の清潔と援助	身体の清潔と健康との関連を知り、清潔の援助を行うための知識と技術を習得する。 ・足浴・全身清拭・洗髪・口腔ケア（演習）			○	○	23
		第2章 日常生活と看護 第2節 食生活の援助	1 食事の意義 2 食事に影響を及ぼす因子 3 病院の食事 4 食事の援助と看護者の役割 5 食事介助の実際 6 食事療法 7 非経口栄養法	食事に影響を及ぼす因子を考慮し、食事の援助技術を習得する。 ・食事介助（演習）			○	○	6
		第2章 日常生活と看護 第3節 排泄の援助	1 排泄のメカニズムと正常範囲の観察 2 排泄の援助と看護者の役割 3 排泄障害と看護	排泄に影響を及ぼす因子を知り、患者のプライバシーや羞恥心に配慮した援助を習得する。（便器・尿器介助のみ） ・排泄援助（演習）			○	○	6
	12	第4章 看護活動の展開 第3節 看護の過程 看護技術Ⅰ	1 看護の必要性の把握と観察	観察の必要や方法について理解する。	○	○			2
		看護技術とは	1 看護技術とは 2 看護介入と安全安楽	看護技術の基本原則と、看護における安全安楽の意味が理解できる。			○	○	2
		第4章 看護活動の展開 第1節 患者との人間関係	1 患者と看護者の関係の特徴 2 患者の家族と看護者との関係 3 患者をとりまく医療従事者との関係 4 看護におけるコミュニケーション 5 患者と看護者との信頼関係の確立	信頼関係を構築するためのコミュニケーションに関する知識を習得する。			○	○	2
		1	第3章 診療と看護 第2節 診療・検査と看護	1 診察・検査における看護者の役割 2 身体の形態的・機能的検査と看護 3 生体検査と看護 4 検体検査と看護	診察・検査の意義・目的を理解し、患者の心理や看護の役割について理解する。 身体計測（身長、体重、腹囲）の意義を理解し、正確に測定する技術を習得する。 ・身体計測・尿検査（演習）			○	○

学期	月	単元	学習内容	到達目標（学習のねらい）	評価の観点				時 数 予 定
					関	思	技	知	
後 期	1	第3章 診療と看護 第2節 診察・検査と 看護	1 診察・検査における看護者の役割 2 身体の形態的・機能的検査と看護 3 生体検査と看護 4 検体検査と看護	診察・検査の意義・目的を理解し、患者の心理や看護の役割について理解する。 身体計測（身長、体重、腹囲）の意義を理解し、正確に測定する技術を習得する。 ・身体計測・尿検査（演習）			○	○	7
	2	第3章 診療と看護 第4節 褥法・保温	1 温度刺激に対する生体の反応 2 褥法・保温の目的および種類と方法	温度刺激に対する生体の反応を把握し褥法の技術を習得する。 ・褥法（演習）		○	○		4
		症状別看護	発熱時の看護	発熱のしくみと発熱時の看護について理解する。				○	2
		リハビリテーションと看護	1 リハビリテーションとは 2 障害のレベル 3 専門スタッフ	リハビリテーションとは、目的と対象、看護の役割、専門的職種について理解する。				○	2
		第2章 日常生活と看護 第3節 排泄の援助	4 導尿と浣腸（浣腸のみ）	排泄に影響を及ぼす因子を知り、患者のプライバシーや羞恥心に配慮した援助を習得する ・浣腸（演習）			○	○	4
		第2章 日常生活と看護 第5節 睡眠と休息の援助	1 睡眠・休息の生体に及ぼす影響 2 患者の睡眠・休息の意味と看護者の役割	睡眠の生理、活動とのバランス、睡眠に影響を及ぼす因子を学び、睡眠障害の対応や休息への援助に関する知識を習得する。 不眠の原因と訴えに対する援助について理解する。 安静を確保するための援助について理解する。		○		○	2
		第1章 看護の意義と役割 第4節 看護職とその倫理	1 専門職としての看護 2 看護の倫理 3 生命倫理	看護の職業倫理について関心を持ち、医療の諸問題について考えることができる。	○	○			6
		包帯法	1 包帯の目的と種類 2 包帯材質・材料の種類 3 包帯の使い方	包帯の目的と種類を理解し、循環障害を起こさないための知識、技術を習得する。 ・包帯法（演習）			○	○	2
	3	第3章 診療と看護 第1節 フィジカルアセスメント	1 フィジカルアセスメントの概要 2 体温 3 脈拍 4 呼吸	体温、脈拍、呼吸を観察することの意義を理解し、それぞれに影響を与える因子や測定の原理、器具の操作と手順について学び、正確に測定する技術を習得する。			○	○	6
		SPH 技術の確認	大切な人の健康を守る提案	公開プレゼンテーションの場において、効果的な提案ができる。	○	○			16
		看護技術コンテスト	学習した内容を振り返り、知識・技術を確実なものとして実施できる。			○	○	3	

## 6 評価の方法

- ①関心・意欲・態度・・・授業を受ける態度・姿勢、課題・調べ学習への取り組み状況、課題の提出状況より評価する。
- ②思考・判断・表現・・・授業中の発言内容、ノート・課題の内容等により評価する。
- ③技能・・・・・・・・・・実技の内容、実技テスト等により評価する。
- ④知識・理解・・・・・・・・小テストや定期考査の得点状況等により評価する。